

2026年1月

学科:再発見！何でも見てやろう

1月 大阪市東淀川区 柴島浄水場の見学について

CA 田口 定 石黒 洋子 益田 政男 山上 田起子

今月は、平成12年3月に、大阪市が全国の政令指定都市としては、初めての全量高度浄水処理を手がけた柴島浄水場を見学しました。高度浄水処理とは、オゾン処理と活性炭処理を組み合わせたもので、カビや臭いの除去に大いに寄与するものです。

さて、大阪市への供給としての浄水場は、柴島浄水場の他に、守口市：庭窪浄水場と、寝屋川市：豊野浄水場があります。

柴島浄水場の供給能力は、最大規模で有り大阪市への給水量1日、約112万トンの内、柴島浄水場は約55万トン、驚くほどの凄い給水能力です！！

又、敷地面積は約462000平方メートル、甲子園球場の約12倍、ほぼ、ユニバーサルスタジオの大きさと同じ、さすがに広いですね！

淀川からの取水に始まり、汚れ、臭いの除去から始まり、「安心・安全な水」として、配水管に流すまでは、約12時間を要すると伺いました。

また、浄水場から一旦配水場に送水された水は、企業、工場、家庭に届くまでの

配水管の長さはなんと大阪市では約5000キロ、老朽化した配水管の修理、取り換えなどの維持管理は、大変な作業と想像できます。さて、見学コースとしては2時間です。まず、会議室で、スクリーン映像にて柴島浄水場の成り立ち、安心・安全な水を提供するための施設の機能などを約15分間学び、その後に沈殿池→砂ろ過池→臭いなどの除去装置などの施設、機能をご案内

頂いた職員の、丁寧な説明をお聞きしながら約1時間余り見学しました。「知らないことばかりだなあ」の声が、参加者から数々、上がりました。





沈殿池→砂ろ過池から出るスラジ埋め立て地へ

最後に、別棟として、旧：第一配水ポンプ場を保存活用して、1995年に開館した水道記念館を、短時間でしたが立ち寄りました。

この水道記念館は、赤レンガと御影石の調和が美しく、1999年に国の登録有形文化財に指定登録されています。

現在は、土・日曜日、祝日に開館して、小学生はじめ来訪者に対して、ひらがな、楽しいイラストなどわかりやすく表記された展示パネル、器具などを通して、水道・水源環境に関する知識の啓発を図る施設として活用されています。

今日一日、短時間でしたが、「命の源「水」の大切さ、安心・安全な水の提供が何よりも最優先」と、1年365日、年中無休で活動されている水道局関係者の方々のご努力に、感謝の思いを強くした時間となりました。

あらためて「一滴の水が大切なこと、日常生活の水の有難さ」を実感しました。!!

